

八女筑後看護専門学校 自己点検・自己評価

目的

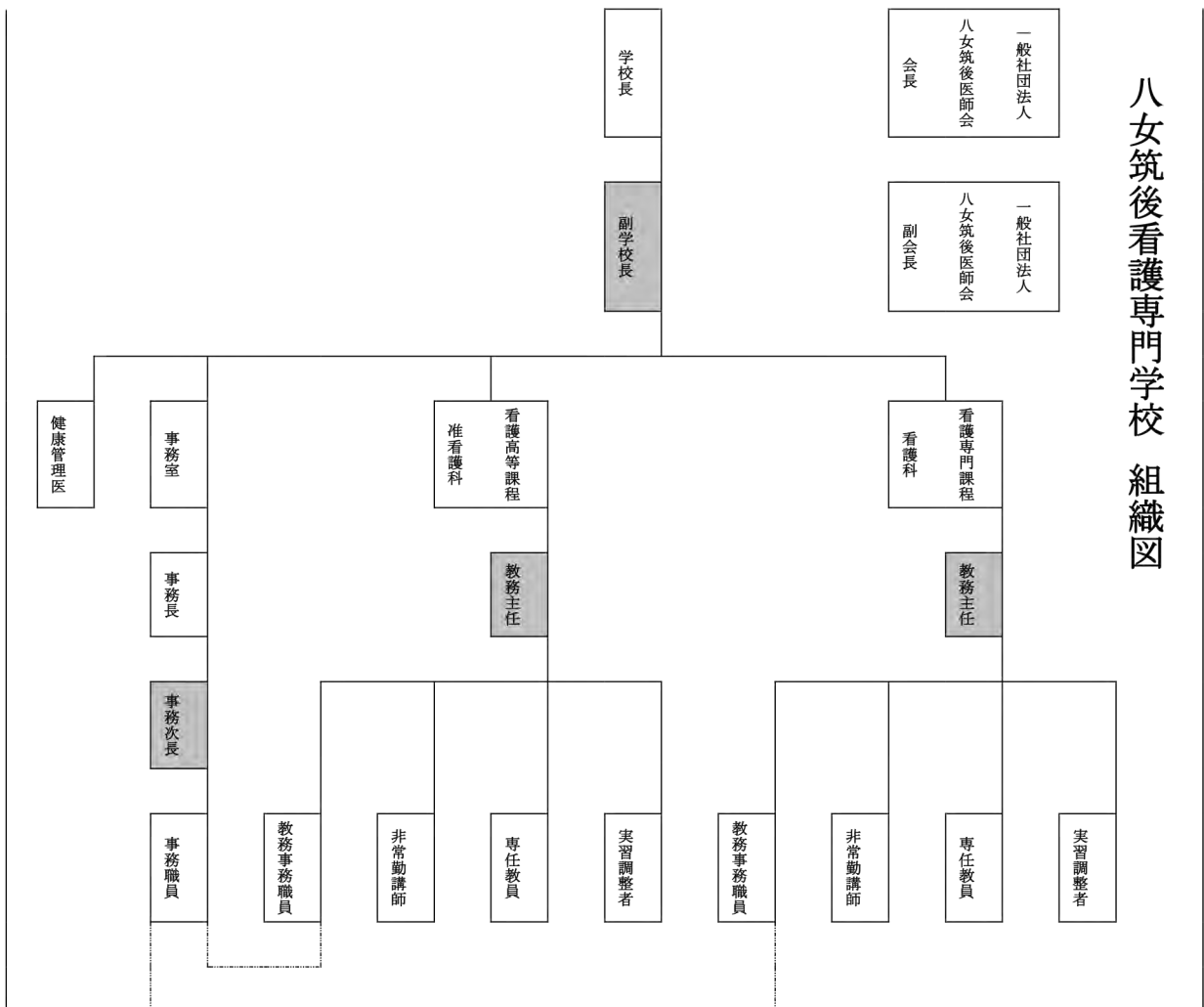
自己点検・自己評価は、看護師等養成所における教育評価の一環として位置づけられる。八女筑後看護専門学校では、教育活動やその他の運営状況について点検・評価を行うことにより、本校の強みと改善点を明らかにし、教育の質向上や健全な学校運営等を目指して組織的・継続的に取り組むことを目的とする。

方法

- ・厚生労働省の「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」を参考に、本校の「学校評価表・ガイドライン」を作成し、毎年度、自己点検・自己評価を行う。
- ・全教職員が評価表に基づき評価を行い、その結果を「学校評価委員会」にて分析し、教職員全体へフィードバックする。
- ・評価結果に基づき次年度への重点課題を決め、検討を重ね改善に取り組んでいく。
- ・評価結果、重点課題を外部へ公表する。

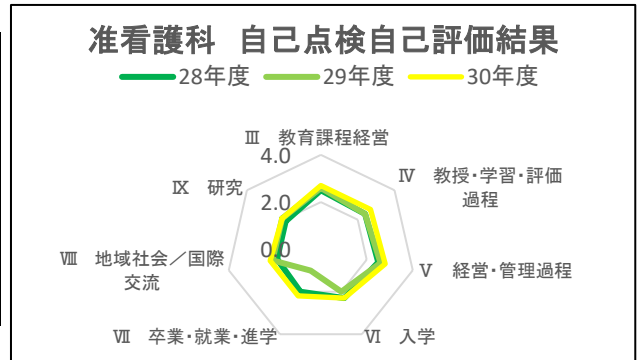
学校評価委員会構成

構成員



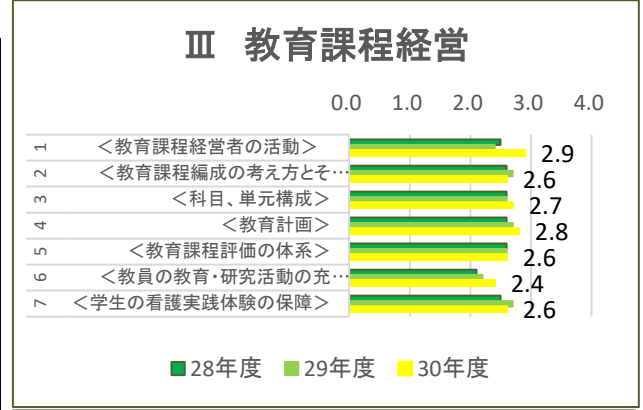
平成28・29・30年度 自己点検自己評価結果 准看護科
 <評価基準> 3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

	28年度	29年度	30年度
III 教育課程経営	2.5	2.6	2.7
IV 教授・学習・評価過程	2.4	2.4	2.7
V 経営・管理過程	2.5	2.6	2.8
VI 入学	2.3	2.0	2.3
VII 卒業・就業・進学	2.0	1.0	2.2
VIII 地域社会／国際交流	1.9	2.1	2.2
IX 研究	1.9	2.1	2.1



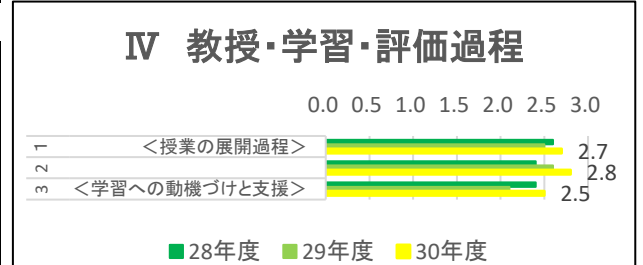
III 教育課程経営

	28年度	29年度	30年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.5	2.4	2.9
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.6	2.7	2.6
3 <科目、単元構成>	2.6	2.6	2.7
4 <教育計画>	2.6	2.7	2.8
5 <教育課程評価の体系>	2.6	2.6	2.6
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.1	2.2	2.4
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.5	2.7	2.6
均	2.5	2.6	2.7



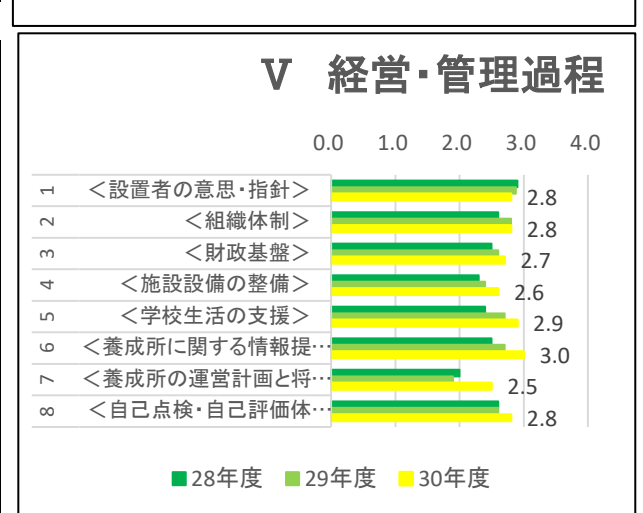
IV 教授・学習・評価過程

	28年度	29年度	30年度
1 <授業の展開過程>	2.6	2.5	2.7
2 <目標達成の評価とフィードバック>	2.4	2.6	2.8
3 <学習への動機づけと支援>	2.4	2.1	2.5
均	2.5	2.4	2.7



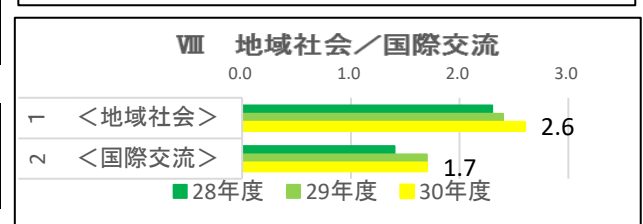
V 経営・管理過程

	28年度	29年度	30年度
1 <設置者の意思・指針>	2.9	2.9	2.8
2 <組織体制>	2.6	2.8	2.8
3 <財政基盤>	2.5	2.6	2.7
4 <施設設備の整備>	2.3	2.4	2.6
5 <学校生活の支援>	2.4	2.7	2.9
6 <養成所に関する情報提供>	2.5	2.7	3.0
7 <養成所の運営計画と将来構想>	2.0	1.9	2.5
8 <自己点検・自己評価体制>	2.6	2.6	2.8
均	2.5	2.6	2.8



VIII 地域社会／国際交流

	28年度	29年度	30年度
1 <地域社会>	2.3	2.4	2.6
2 <国際交流>	1.4	1.7	1.7
均	1.9	2.1	2.2



平成 30 年度 重点課題に対する評価 准看護科

1. 1年次のポートフォリオとチュータ制をとおして“考える力”の育成

1年次の6月にチュータ制を開始し、個人に応じた学習の強化、態度面の指導を行った。また、ポートフォリオを活用し、学生自身が2年間の目標に向けて取り組むことができるよう計画したが、指導時間の確保が難しく達成できたとはいえない。教員間で計画を見直し、引き続き課題に取り組んでいく。

2. 学生の基礎看護技術力の向上を目指す

30年度からルーブリック評価を導入し、学生の技術の到達度や課題を明確にしたことで、技術試験の合格率が昨年度に比べ10%UPした。また、今年は更に日常生活援助技術『寝衣・シーツ交換』だけでなく、診療の補助技術『一時的導尿』を協同学習に取り入れた。そのため、放課後等の時間を活用し、学生間で教え合うことができ、それが看護技術力の向上に繋がってきているといえる。

3. 准看護師試験の100%合格と進学希望者専門課程への100%合格を目指す

福岡県准看護師試験の合格率は94.9%であり、昨年より1.7%低くなっているが、本校においては、9年連続全員合格であった。また、卒業生のうち7割が進学を希望し、全員が看護専門課程（2年課程）に進学することができ目標を達成することができた。一方、就職希望者も全員が就職できた。

卒業時のアンケートでは、『感性豊かな人間性を培うことができた』と答えた学生が8割、『自己の目標に向かって努力する基盤ができた』と答えた学生が7割であった。

4. 学生にわかりやすい授業を提供するため、授業準備時間を確保する

昨年に比べ、実習指導時間と授業準備時間の調整が取れるようになってきたが、個々の学生指導にかかる時間や個人面接回数が増えてきているため、授業準備時間が確保できているとはいえない。引き続き課題に取り組んでいく。

5. 広報活動を強化し、受験生を増やし質の高い学生を担保する

30年度は、①高校生の推薦入学を導入②准看護科・看護科4年間で看護師国家試験取得の強みをアピールする③学校訪問を7月と10月の2回実施とエリア拡大 ④在校生、卒業生からの勧めがある校風をつくるなど広報活動を強化し、受験者の増員に努めた。しかし、倍率は1.18と昨年に比べ0.01%低くなった。引き続き課題に取り組んでいく。

2019年度 重点課題 准看護科

1. 1年次のポートフォリオとチュータ制をとおして“考える力”の育成
 - ①学生が自己成長できる基盤として、主体的に学習する態度を身に付けることができ、職業人として責任ある行動がとれるようになる
 - ②看護に対する興味・関心を引き出すことができ、2年次の実習に意欲的に取り組むことができる基盤をつくる

2. 学生の基礎看護技術力の向上を目指す
 - ①協同学習法で、主体的に看護技術を習得する姿勢を身に付ける
 - ②基礎看護技術Ⅵ、Ⅶで実習の基盤となる看護技術を取得する
 - ③実践活動外学習の活用

3. 教員の自己研鑽のため、日本看護学校協議会・学会にて研究発表を行う（8月）

4. 福岡県准看護師試験全員合格の継続と進学率 UP を目指す

5. 働き方改革の実現